

令和 7 年度第 5 回長野市社会福祉審議会児童福祉専門分科会
(長野市版子ども・子育て会議)
会議要旨

- 開催日時 令和 7 年 9 月 26 日(金) 午後 1 時 30 分から午後 3 時 00 分まで
 ○開催場所 第一庁舎 5 階 庁議室
 ○出席委員 水口委員、田中（亜）委員、渡邊委員、塚田委員、北村委員、宮下委員、倉島委員、阿出川委員、中村委員、松田委員、山崎委員、石垣委員
 ○欠席委員 塚原委員、和田委員、宮本委員、田中（宗）委員、日台委員
 ○事務局出席者 島田こども未来部長、丸山こども政策課長、中村子育て家庭福祉課長、宮下保育・幼稚園課長、石坂こども総合支援センター所長ほか

発言者	内容
	1 開会
会長	2 挨拶
	3 議事
事務局	<p>若者に関する計画素案について</p> <p>資料 1、資料 2 に基づき説明</p> <p>《質疑応答》</p>
委員	<p>理念について、前回、全ての若者が夢を持てるわけではないというような議論があったが、夢という言葉そのまま使うかは別として、支援を必要としている人が夢や希望を持ってないというわけではないはずだと思う。一人ひとりの夢や希望の大きさは異なると思うが、一方的にこちらで先回りして消してしまつてよい文言なのか、改めて考えた時に疑問に思った。</p> <p>理念は、様々な立場の方々の思いや考えが含まれた文言である必要があるが、今回の案は分かりやすい表現となっており、この基本理念の考え方に賛同する。</p>
委員	<p>支援をしている中で、ひきこもりについては、本人の問題だけでなく、本人の周りの人の価値観などにより生きづらさを感じているというケースもある。支援としては、本人に対してだけでなく、身近な人が本人の状況を理解し、それを周囲に広めていくことが重要である。理念の「安心して自らの未来を描ける」という文言が大切と感じている。</p>
委員	<p>理念案について、これまでの意見が反映されたものとなっている。夢や希望という具体的な表現ではなく、「安心して自らの未来を描ける」という表現をしているところや、「社会の一員として」で始まり「まちの実現」で締めくくっていて、施策にもつながっていくところがよいと感じた。</p>

発言者	内容
委員	「安心であるまち、安心でいられるまち」というのは最重要事項。この言葉が入っているのがよい。
委員	「自らの未来」という表現が、一人ひとりの若者の未来という捉え方ができ、非常によい。
委員	「安心して」という表現を理念に含めたのがよい。
委員	<p>理念はどういうもので、どうあるべきかについて、理想と現実の概念について考えた時、現実には、夢が持ちにくい、希望が持てないなど、実際の現場ではそのように感じるものがあり、前回のような意見が出たと考えられる。一方で、理想とは、現実と異なるもので、我々がこうありたいと目指すもの。また、理想と理念について調べた時に、理念と異なるところとしては、不変のものであるところ。社会の中で生活していく中で、変わらずに掲げ続けられるものがあった。</p> <p>現実も大切だが、目指す姿として、あまり変わらずに掲げ続けられるものである必要があるのではないか。そういった面からも、今回の案は、理念の概念に合致するものであるし、分科会で出た様々な意見を踏まえて、整理できていると感じる。</p>
委員	成果指標について、「割合の増加」とあるが、具体的な数値は出さないのか。また、掲載されている事業は、新規のものか、既存のものか。
事務局	指標について、施策のテーマごとに各事業をカバーできるものを挙げていて、アンケートを再度実施し、評価していく仕組みとしている。また、事業については、現在各課で取り組んでいるものを挙げています。
委員	就労への支援の成果指標について、現在の仕事に満足している若者の割合で評価していくのか。
事務局	今年度実施した若者へのアンケート調査の項目から、この施策のテーマに合致するものを選んでいく。
委員	以前、長野市私立保育協会、園に子どもを預けている保護者を対象に、長野市の子育て支援に関するアンケート調査を実施したが、その中で、市で行っている事業や取組について知らない保護者が多くいることが判明した。まずは周知が必要で、その上で支援につながっていく仕組みづくりが必要であると感じた。
事務局	若者に限らず、重要であると認識している。アンケートやヒアリング調査では、情報が見える化してほしいといった意見も出ている。また、若者支援をしている機関や、若者を対象にした相談窓口などについて、整理できていないとい

発言者	内容
	う現状もある中で、五つ目の施策として「関係機関との連携や情報発信」というテーマを設定しており、引き続き検討が必要であると考えている。
委員	<p>小さいうちから、自分の訴えをしっかりと聞いてくれる大人がいるということを認識することが、大きくなってから、どこかにヘルプを出せば必ず助けてくれる人がいるといった確信につながると思う。そういった仕組みを整えることが大切と考える。</p>
委員	<p>様々な施策を実施していても、周知ができていなければ意味がない。現場では、相談先などの情報を知らないケースも見受けられる。知っていることで、悩みを相談するまでの苦しい期間が短くなると感じている。</p>
委員	<p>理念も取組もよいものであるが、計画の存在や、市が行っている取組を知る機会が少ないと感じる。情報発信が課題と考えるので、検討していただきたい。</p>
事務局	<p>市全体に関わる非常に大切な課題と考えている。広報やSNSを通して発信しているが、広報部門とも連携しながら引き続き努めていきたい。</p>
委員	<p>市役所の中での連携がもっと必要ではと感じる経験があった。庁内の連携がより強化されていくとよい。</p>
委員	<p>「ライフプラン形成と実現に向けた支援」の施策の方針について、「明るい未来」とあるが、この表現でよいのか疑問に思った。現場で、子どもたちに対して「明るい未来」と表現することに難しさや深さを感じている。理念との整合性も図る必要があるか。</p>
事務局	<p>ライフプランを描くことで、将来像が見え、自身の夢につながる、自己肯定感が上がるというイメージの中で「明るい」という表現を使っているが、社会の一員や多様な価値感といった表現に置き換えた方がイメージとして正しいかどうか、議論が必要などと感じる。</p>
委員	<p>「明るい」という表現について、まちとして取り組んでいく目標としては入れてほしい言葉であると感じる。</p>
事務局	<p>施策の方針は、市が進めていく取組を要約したもので、先に議論いただいた基本理念が反映されているものとイメージしていただきたい。庁内の様々な計画との整合性も図る必要があるが、もう少し深掘りしながら検討していきたい。</p>
委員	<p>他機関との連携について、庁内で完結させるのではなく、庁外の団体との連携も意識してもらいたいので、そのような表現をしてほしい。例えば、就労支援は商工会議所でも行っている。いろんな窓口があることを知ってほしい。</p>

発言者	内容
事務局	若者に関しては特に、市ができることの範囲は限られるものと感じている。他団体と連携は必須のため、今回五つ目の施策として「関係機関との連携や情報発信」を追加している。
委員	相談窓口を一覧で図にするなどし、相談先がすぐにわかるような仕組みづくりができればよい。
事務局	施策を展開する中で、必要な取組であると感じている。検討していきたい。
委員	計画の形はこれが最終形態となるのか。
事務局	この形態をベースとし、次回パブリックコメント案をお示ししたい。
委員	シニアリーダーズクラブの事業概要について、「向上させる」とあるが、他の事業概要と比較するとやや強い表現と感じる。
事務局	細かい表現については、パブリックコメント案として整えるにあたり、整理していきたい。
委員	<p>「相談体制の充実」で挙げられている取組について、自身で相談窓口に出向く必要のある直接的な支援が多いが、若者の相談のスタート地点はChatGPTやLINEなどの間接的なものが多く、そこから支援が必要な人を早期に発見し、直接的な支援に繋げていく方法を検討してほしい。</p> <p>また、情報発信については、SNSが得意な学生自身が発信するのもよい。アルクマなど、若者の目を引くキャラクターを用いるのも手ではないか。</p>
委員	若者の情報発信については、ストーリー性のある発信がよい。発信の方法は市だけで完結させるのではなく、外に投げてよいのでは。外の人が市の施策を理解しながら発信していくと、一市民としてより受け取りやすくなるのではないか。
事務局	いろんな機関と協力して発信していくことは重要と考えている。委員の皆様のネットワークも活用させていただきたい。
委員	情報発信について、若者はSNSの使い方が上手である。市のホームページは階層が深く、見づらいという意見も聞くので改善が必要か。また、長野市にもキャラクターがいるとよい。若者に浸透しやすいのではないか。
事務局	ホームページをはじめ、見せ方については引き続き工夫していきたい。
	4 その他
	5 閉会